

琉球大学学術リポジトリ

米国議会（上院審議）(2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): 外交委員会, 軍事員会, 調書, 想定問答 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43553

想
定
内
容

問一 米側は、日本側のごんを国内措置が出来なければ
批准書の交換を行なうと言ふてゐるのか。

参 衆

問

外 務 省

答 米側のごん及照会するところ、米側は返
還協定の実施のため日本側においでなごんを国
内措置が必要かはもとより日本側が判断する
ところであつて、米側としてはこの法律案という
やうな特定のものを指するものではなく、日清の
沖繩の返還が実現されるための日本側の国内
措置を全般的に指するものゝあつたことごとく
あつた。かくして、日本側においでなごんの国内措

外 務 省

参 衆

問

問がとらぬ得ることとなり、いかに迅速協定の

の實施が確保され得る可。従つて日本側として

は批准書の交換を行なひ得る可。通報の持す

れば米側としては批准の速する立法府の支持を

~~得ることには~~、日米両協定の、上日時を定

め、批准書の交換を行なうることである。

参衆

問

外務省

第 国会 本 会 議 (質問者)

月 日 (参 衆 子、外、内 委員会)

外務省

問、いからば、日本政府は、この国内措置がとれ

るなら迅速協定の實施が確保されることを考へて

るのか。

参衆

問

答 沖縄の復帰準備は大きな一体としての仕事であつて返還協定の実施の目的は沖縄の復帰の目的の全この法律案が多岐に少なから肉連があり、従つて政府としては、今国会の提案している全肉連法案が成立することを強く期待している。

答

衆

問